

音楽研究会 部会記録

日時 平成29年7月5日(水) 15:30~16:45

部会名 音楽づくり 主任 吉田 百合子

参加数 20人 司会 菊地 美保 記録 岡田 真由子

研究部 研究テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業のあり方

部会テーマ：一人ひとりの発想を生かし、思いや意図をもって音楽をつくる活動

研  
究  
内  
容

○基礎研究 「日本の音階を用いた音楽づくりについて」

- ・「さくらさくら」を箏で演奏した経験から、音階について多少理解のある子どもと、そうでない子どもでは、どのように導入やモデル演奏、約束事に変化するかを考えたい。
- ・箏での活動は、音階を正確にとらえることよりも、日本らしさの特徴を感じ取って演奏を楽しむことが大切。
- ・旋律づくりの活動では、つくる必然性が欲しい。活動前にどのような思いをもたせるのか、そのためにどのような活動を行うのが大切。鑑賞とのつながりも考えたい。

○実践提案 「音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくろう」 5年生

～日本の音階をつかって、オリジナルの旋律をつくろう～

- ・第1時では、モデル演奏として教師がいろいろなパターンの旋律を聴かせる。  
(だんだん音上がる旋律、上がって下がる旋律、ジグザグの旋律、動きの少ない旋律 など)
- ・自分の表したい感じになるような旋律パターンをつかった後、第2時でリズムを工夫する。
- ・モデルをたくさん提示することで、自分の思いに合うものを選ぶことができた。
- ・思いや意図があっても、技能によって演奏できるものが制限されてしまうという課題があった。
- ・ワークシートの枠に書き込むだけになってしまったので、記譜もした方がよかっただろうか。  
(協議)
- ・音の移り方を約束事として提示した方がよい。音が飛んでしまうと、日本音階のよさは全く表れないものになってしまう。
- ・提案は個が主体の活動だったが、短い旋律だからこそ、友達とつなげるなど関わらせたい。
- ・旋律線をパターンだけで選ぶのではなく、実際にリコーダーで音を出して試しながら、自分の思いをもたせたい。
- ・第1時で音を選んでしまうと、音に縛られてしまって表したい感じにするのが難しい可能性がある。  
音もリズムも同時進行で選びながら活動した方が、より思いが表れるのではないか。
- ・音を重ねさせたいという考えもあるが、本来、旋律同士を重ねるというよりは、長い音にリズムのある旋律を重ねるような演奏法の方が、音も濁らず、合っているのではないか。
- ・技能的にリコーダーでは思いに合う旋律をつくれないうちの子がいるのであれば、木琴や鉄琴などを使うことでハードルを下げるができる。
- ・木琴や鉄琴と、リコーダーとを重ねた時には、音の違和感はなく活動できるのではないか。  
→9月は、リコーダー以外の楽器も使った活動を実践提案していただく。

○12月研究授業について

- ・昨年度の同教材での実践では、音階によるイメージに縛られてしまったのが課題。
- ・リズムにのって演奏できるように伴奏を用意したいが、どのような伴奏がよいのか。
- ・旋律を重ねる活動は必要か。

